

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成21年7月23日(2009.7.23)

【公開番号】特開2005-306937(P2005-306937A)

【公開日】平成17年11月4日(2005.11.4)

【年通号数】公開・登録公報2005-043

【出願番号】特願2004-123083(P2004-123083)

【国際特許分類】

C 09 J 133/06 (2006.01)

C 09 J 7/02 (2006.01)

【F I】

C 09 J 133/06

C 09 J 7/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月9日(2009.6.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

そこで、本発明の目的は、従来の帯電防止性粘着シート類における問題点を解消すべく、金属類に粘着面が直接接触しても腐食の発生がなく、剥離時の帯電防止性の優れた帯電防止性粘着剤組成物、およびそれを用いてなる帯電防止性粘着シート類を提供することにある。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明の粘着剤組成物によると、実施例の結果に示すように、酸価が29以下である(メタ)アクリル系ポリマー、およびフッ素含有リチウムイミド塩を含む粘着剤組成物を用いることにより、金属類に粘着面が直接接触しても腐食の発生がなく、剥離時の帯電防止性の優れたものとなる。上記粘着剤組成物の架橋物が、かかる特性を発現する理由の詳細は明らかではないが、上述の酸価が29以下である(メタ)アクリル系ポリマー、およびフッ素含有リチウムイミド塩を含む粘着剤組成物を用いることにより、フッ素含有リチウムイミド塩との相溶性、および伝導性等のバランスの良い相互作用に寄与し、もって良好な粘着特性、帯電特性および腐食性の並立を可能にしていると推測される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0115

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0115】

<実施例3>

〔粘着剤溶液の調製〕

上記アクリル系ポリマー(A)溶液(40重量%)を酢酸エチルで20重量%に希釈し

た溶液 100 重量部に代えて、上記アクリル系ポリマー (B) 溶液 (25 重量%) を酢酸エチルで 20 重量% に希釈した溶液 100 重量部を用いた以外は、実施例 1 と同様の方法によりアクリル系粘着剤溶液 (3) を調製した。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0117

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0117】

<実施例 4>

〔粘着剤溶液の調製〕

上記アクリル系ポリマー (A) 溶液 (40 重量%) を酢酸エチルで 20 重量% に希釈した溶液 100 重量部に代えて、上記アクリル系ポリマー (C) 溶液 (40 重量%) を酢酸エチルで 20 重量% に希釈した溶液 100 重量部を用いた以外は、実施例 1 と同様の方法によりアクリル系粘着剤溶液 (4) を調製した。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0123

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0123】

<比較例 2>

〔粘着剤溶液の調製〕

上記帯電防止剤溶液 (b) (50 重量%) 4.0 重量部に代えて、上記帯電防止剤溶液 (d) (50 重量%) 4.0 重量部を用いた以外は、実施例 2 と同様の方法によりアクリル系粘着剤溶液 (7) を調製した。